

笑顔いっぱい！ 夢いっぱい！ イイねがいっぱい！ たくまばる」

託麻原小学校だより

No.7

みどりの風 2nd シーズン

R6 (2024).11.12

文責：佐藤真司

「井上選手は僕の人生の恩人です」

こう話したのは **堤 聖也** 選手。

プロボクシングの選手で28歳。なんと！託麻原小の卒業生！みなさんの先輩です。



WBA世界タム級王者
堤聖也選手

堤選手は、10月13日に有明アリーナで行われた試合で、挑戦者としてチャンピオンの井上拓真選手に挑みました。

インターネットで全世界に配信される大会のメインイベントです！

今回の試合で注目されていたのはチャンピオンの井上拓真選手の方でした。絶対王者の井上尚弥選手の弟として期待されており、まだ試合はこれからなのに、拓真選手がこの試合で勝った後のことが話題になるほどでした。

しかし、試合が始まると、段々と会場の空気が変わっていきます。

井上選手のパンチをどんなに浴びても、前に出てパンチを出し続ける堤選手を後押しするように、観客の声援がどんどん大きくなっていきます。

そして、運命の第10ラウンド。堤選手の執拗な攻撃に対し、井上選手は距離を取って離れようとしています。そしてほんの一瞬、井上選手が目線を外した隙を堤選手は見逃しませんでした。

猛然とラッシュを仕掛け、ついにダウンを奪うと満員の有明アリーナが大歓声に包まれます。

立ち直った井上選手も、残り2ラウンドで反撃を試みますが、堤選手は一步も退かず前に出て攻撃し続けました。会場も「せいや！せいや！」の大コール。

壮絶な打ち合いで12ラウンドを終え、3-0の判定勝ちで堤選手は初めて世界チャンピオンとなりました。喜びの涙を流し、勝利者インタビューで堤選手はこう語ります。

井上選手はすごく上手くて、自分が練習してきた動きがなかなか出なくて、(やっぱりオレはこういうところでコケる男なのかな・・・)と何回も何回も弱い心が出てきたんですけど、ジムの石原トレーナーや真吾会長みんなが声をかけてくれて、大事に大事に戦うことができました。彼(井上選手)がいたから僕はプロボクシングの世界に来たし、彼がいたおかげで僕はボクシングを続けてこういう舞台に立つことができました。井上拓真選手は僕の人生の恩人です。

堤選手と井上選手は同い年で、高校生の時に対戦し堤選手が敗れているのです。

いろんなスポーツで試合後に相手を讃える言葉を聞くことはありますが、さっきまで命を削り合うような打ち合いをした同学年の選手を、「人生の恩人」と表現した人を私は知りません。

自分の弱い心をさらけ出しながら、チームスタッフの教えを信じてひたむきに努力を重ね、決して威張らずに、同学年の対戦相手を「人生の恩人」と話す姿に心から感動しました。それが堤選手の強さの秘密なのだと思います。

これからの活躍を応援していきましょう。 がんばれ！堤聖也選手！

写真提供：株式会社 DANGAN プロモーション